

# 知的障害と肢体不自由をあわせ有する生徒の 一般就労について

相田 泰宏（横浜市立上菅田特別支援学校）

# 発表の意図

肢体不自由特別支援学校は知的障害と肢体不自由をあわせ有する児童生徒が多く、高等部卒業後の進路先は福祉施設への入所・通所が多い



開校から47年を迎える当校も、高等部卒業後の進路先は福祉施設がほとんどで、一般就労する生徒はいなかった



令和2年度、当校としては初めて知的障害と肢体不自由をあわせ有する生徒が一般就労した



一般就労までの経緯を紹介の上、可能性を広げた要因を考察する

# 横浜市立上菅田特別支援学校

## 肢体不自由教育課程

小学部47名、中学部50名、高等部64名  
計161名(R3.10.1時点)





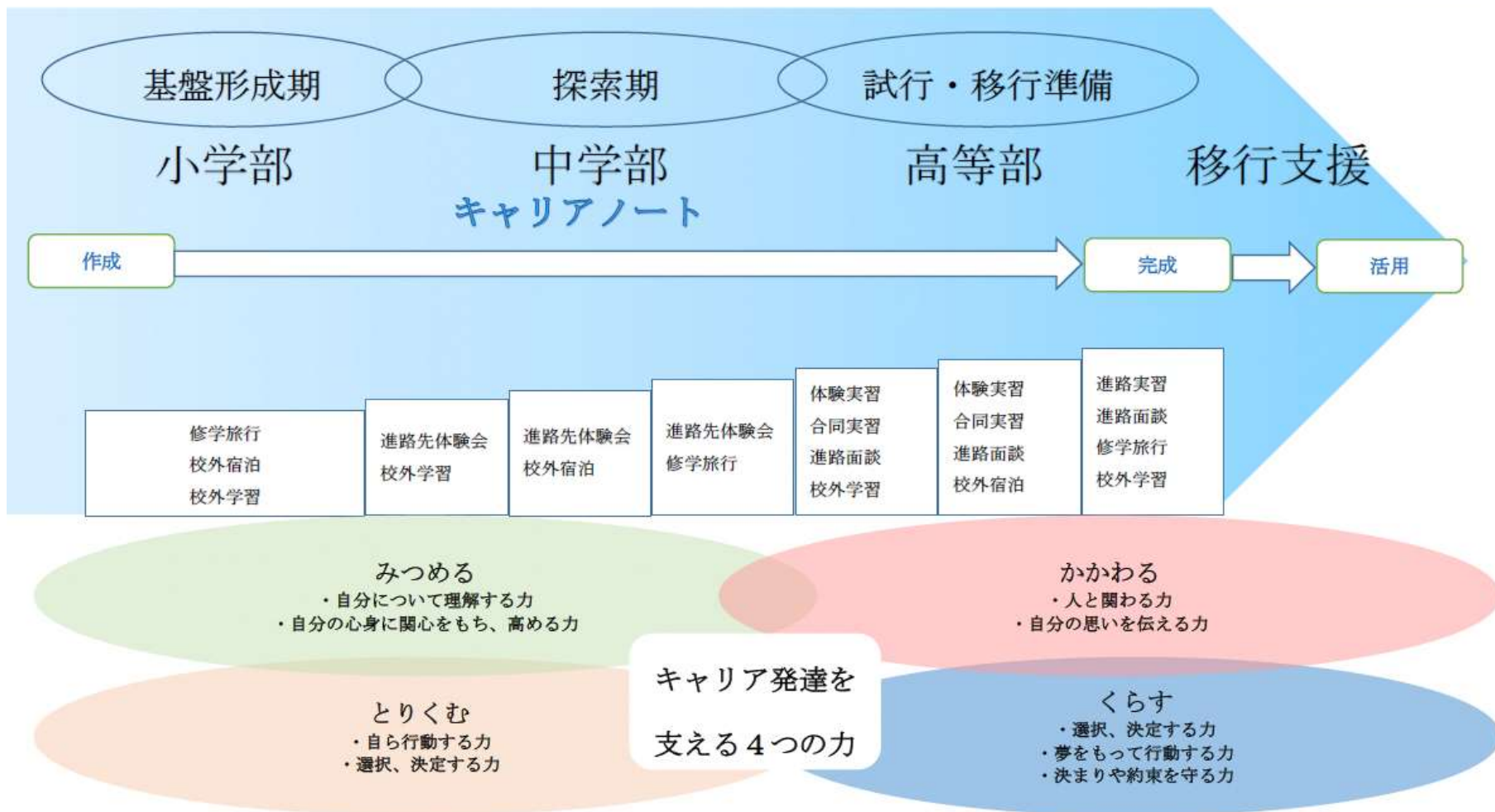
## 当校の特徴

- 神奈川県内最大規模
- 横浜の中心にあり、横浜市全域から通学
- 様々な実態の児童生徒が在籍（複数の障害をあわせ有している児童生徒が多い）
- 令和元年度より、キャリア教育充実に向けた取組を開始

## 上菅田特別支援学校 キャリアアッププラン

### キャリア教育目標

いつまでも自分らしく、社会とともにいきいきと暮らしていけるよう、自己理解・自己選択・自己決定・自己表現の力を育てます。  
一人ひとりの良さや強みを見つけ、増やし、伸ばし、社会に貢献できる人を育てます。



## 当校卒業生の進路(H27～R1)

	H27	H28	H29	H30	R1	計
生活介護	13	18	19	16	9	75
地域活動支援センター（作業所型）	3	2	1	1	3	10
自立訓練（機能訓練）			2	1	1	4
自立訓練（生活訓練）			1		2	3
就労移行支援				2		2
就労継続支援（A型）						0
就労継続支援（B型）		3				3
職業訓練	1					1
就労						
進学	2				1	3
その他	1	1				2
卒業生合計	20	24	23	20	16	103



## 当校の進路指導の強みと課題

卒業生の進路先は福祉施設が最も多い  
歴史があり、たくさんの卒業生を輩出している

### 強み

福祉施設との強いネットワーク

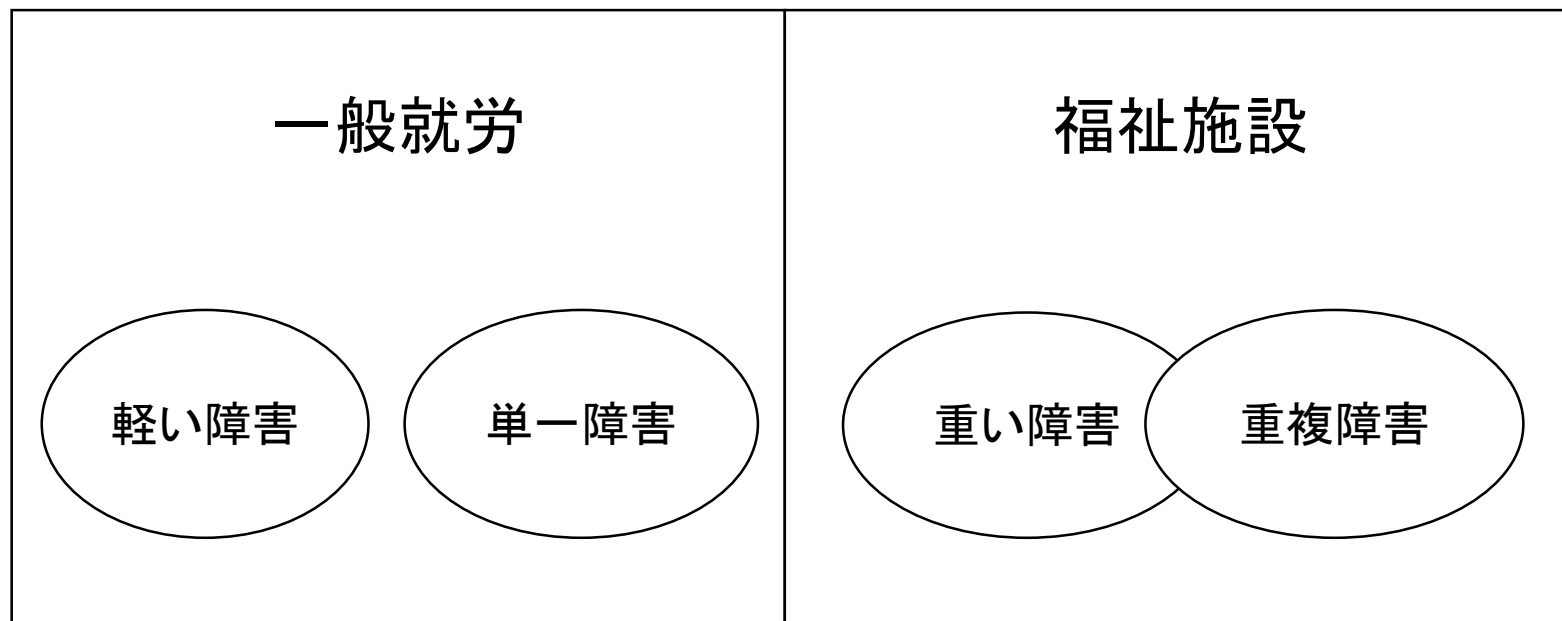
一般就労へ直接つながった生徒はいない

### 課題

一般就労を希望する生徒への情報提供と計画的な進路指導



# 現状



重い障害・重複障害の進路先＝福祉施設？

より進路選択の幅を広げる（一般就労を希望する）  
ことはできないか？

## 当校就労事例の紹介

- 知的障害(療育手帳A)
- 肢体不自由(身体障害者手帳3級)
- 就職先:特別養護老人ホーム(在学中は同法人が運営する放課後等デイサービスへ通所)

## 進路決定までの流れ

進路面談

現場実習①

現場実習②

求職登録

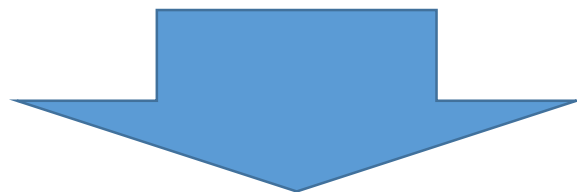
書類提出、面接

## 印象的なエピソード

- 進路面談時の生徒本人からの「B社で働きたい」という強い希望
- 就労後の会社への聞き取りで「Aさんの穏やかで優しい性格がこの仕事に向いている」と評価していたことがわかった

## 考察：就労の可能性を上げた要因

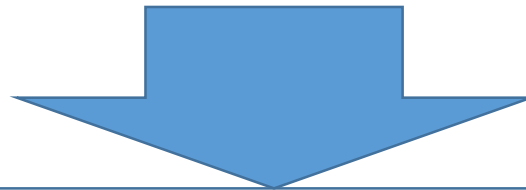
- ①「この会社で働きたい」という高いモチベーション  
→現場実習での積極的な姿勢、仕事への責任感
- ②会社が生徒の人柄や人間性を熟知  
→業務適正の把握、将来性への期待



放課後等デイサービスに通所する中でAさんの「この会社で働きたい」という気持ちが芽生え(①)、放課後等デイサービスでAさんが人と関わる姿から会社はAさんの人間性を知ることができた(②)

## 今後の課題

- 生徒の「働きたい」という気持ちをより高めるために、どのような進路指導が必要か。
- 会社側に生徒の強みや良さ、人間的な魅力を伝えるためには何が必要か。



従来の進路指導の形にとらわれず、生徒の進路希望実現のために必要な方策を模索する。